

# 仕事をしている妊婦が描く 産後の生活とお金のイメージ

2018年2月  
30代女性 助産師

# 目次

1.	背景	・・・	p3
2.	助産師外来に来た妊婦の就労率	・・・	p4
3-1.	就労妊婦がイメージしている産後の生活	・・・	p5
3-2.	実例① 初産婦、企業の事務員	・・・	p6
3-3.	実例② 初産婦、OL	・・・	p7
3-3.	実例③ 経産婦、保育士	・・・	p8
4.	まとめ	・・・	p9
5.	考察	・・・	p10

# 1. 背景

妊娠、出産という人生の転機の中で

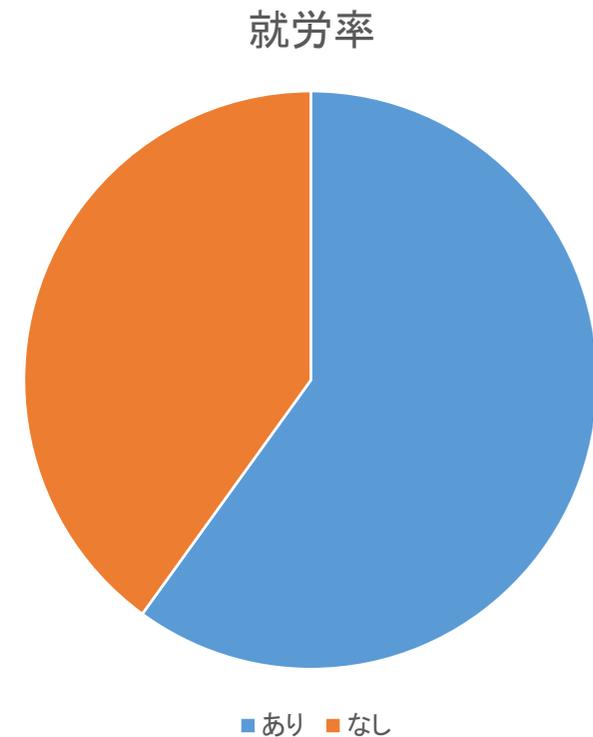
女性はどれほど、「産後の人生設計を考えているのか」という

疑問が生まれたため、助産師外来に来た妊婦に

現在の就労状況と、産後の生活設計について聞いてみた。

## 2. 助産師外来に来た妊婦の就労率

- 助産師外来に来た妊婦10名に現在の就労率を確認。
- 10名のうち、6名がフルタイムで就労していた。
- 10名中10名が既婚、夫も就労している。



## 3-1. 就労妊婦がイメージしている産後の生活

- フルタイムで働いている妊婦の全員が  
「産前産後休暇」、「育児休暇」を取得し  
その後もフルタイムで働き続ける予定と答えた。
- 就労妊婦がイメージしている産後の生活や  
フルタイムで働くという選択する背景を紹介する。

## 3-2. 実例① 初産婦、企業の事務員

### 【産後のイメージ】

産後は保育所に預けて働く予定

### 【フルタイムを選択する背景】

職場が、共働きを推進しており

本社（東京）の方では、専用の託児所もできている。

そんな流れのため、働いておく方がいいだろう。

一生、その職場で働くつもりになっている。

## 3-3. 実例② 初産婦、OL

### 【産後のイメージ】

父母の家が近いため、手伝ってもらおう

### 【フルタイムを選択する背景】

貯金をあまりせずに、今年家を購入。

その後に予期せぬ妊娠だった。

育児休暇は3年取れるが、職場の雰囲気では1年が限界。

育児休暇中のお金も1年しか支給ないため、1年しか休めないと思う。

## 3-4. 実例③ 経産婦、保育士

### 【産後のイメージ】

上の子どもが小学校のため  
保育所と学童に迎えに行くのが大変になるだろう

### 【フルタイムを選択する背景】

ずっと同じ職場で働いている。  
共働きでのお金で生活していることや  
これから、夫の収入が上がる見込みがないことから  
共働き以外の選択はできないという。

## 4. まとめ

- 出産により、生活の変化があることは予想し  
保育所や両親の協力などのイメージはしている。
- 今の収入を基盤とした支出をしており、その生活の変化が怖い。  
→ 子どもが生まれたあとの収支計算を事前にはしていない
- 夫の収入がこれ以上あがらないという思いから、共働きを選択している  
→ 子どもと過ごす時間と働く時間のバランスも考えられていない

## 5. 考察

ここまでのまとめから、出産後の将来の不安が強いことや今の生活基盤を変化させたくないという思いから共働きを選択している夫婦が多いことがわかる。

もし、働けなくなったら、今の生活を続けることができるかは未知数で貯金を切り崩すか、借金をしなければならない可能性があり上記のような予備軍は多いと思われる。